

FIG 2025 年作業週間の概要

1. 主催者

国際測量者連盟 (FIG)、オーストラリア地理空間協議会 (Geospatial Council of Australia (GCA))。GCA 主催のオーストラリア国内イベントである Locate25 と併催。

2. 会場

オーストラリア国ブリスベン市

ブリスベン・コンベンション&エキシビション・センター (BCEC) (対面開催のみ)

ブリスベン市はクイーンズランド州の州都であり、高層ビルの立ち並ぶオーストラリア第 3 の都会である。BCEC は広大な建物で、今回の会議と展示はワンフロアで行われたため、会場内の移動の便はよかった。

3. 会期

2025 年 4 月 6 日～10 日

FIG 総会：4 月 6 日及び 10 日

開会式及び閉会式：4 月 7 日及び 10 日

会議：4 月 7 日～9 日

3 日間にわたり、基調講演、各種技術プログラムのほか、定期会合として分科会会議、会員協会等の参加するフォーラム、会長会議等が開催された。

プレイベント：4 月 5 日

ソーシャルツアー：4 月 11 日

4. 今会合のテーマ

協力、革新、強靱性： デジタル世代の支援 (Championing a Digital Generation)

次世代を支援または牽引しようという趣旨で Championing と言っているようである。

5. 参加者

85 か国、1400 人の参加があった。前年 (ガーナ) 83 か国 900 人、前々年 (アメリカ) 85 か国 1000 人から大きく増加した。日本からは村上真幸のほか、宮原伐折羅様、石井健太様、岡田謙吾様、長谷川博幸様の計 5 名が参加した。

6. 総会

正会員 103 団体のうち、57 団体が出席した。

6.1. 分科会次期委員長選挙

前年に、FIG 理事会からの提案により次期委員長選挙の時期を 1 年遅らせて今年実施することを決定したが、これを正式に定款を改正して定めることの賛否を問うこと、立候補 3 名があった第 3 分科会の委員長選挙を行うための候補者の演説が行われた。他の分科会は立候補 1 名なので信任投票となった。選挙の結果、任期を 2025-26 年（委員長就任後任期：2027-2030 年）とする分科会次期委員長 10 名が決定した。

6.2. 新規加盟団体

正会員：Society of Geodesy and Geomatics Engineers Azerbaijan

（準会員以下、略）

6.3. 除名された協会

正会員：Bahamas Association of Land Surveyors（除名）

（準会員以下、略）

6.4. Dumashie 会長からこの 1 年間の活動報告

昨年の活動について、各種 FIG 会合開催、連携する他団体の集会への参加、国連をはじめとする各種団体・組織との連携について報告があった。

6.5. 2024 年度会計決算の承認と 2025－2028 年度の予算の承認

2020～23 年度は連続して赤字決算であったが、2024 年度は単年度黒字に転じ、決算は承認された。2025～28 年度予算については、2026 年度に会費を値上げすることが昨年決定されており、黒字を継続できる見込みで、予算は承認された。

6.6. 会費の値上げ

昨年度の総会で 2026 年度から会費の値上げが決定（€4.80／人 から €5.20／人）しているが、今後のインフレに対応するために年 2%の上昇に相当する増分を 2027 年度会費に適用して€5.30／人にすることを決定。JFS は総額€1632.4（≒280,000 円：€1≒172 円）となる。

6.7. FIG 基金

今会合の 5 名の若年参加者に対し助成金を与えたことが報告された。うち、RIPRO の助成金によりウクライナから 1 名が参加した。

6.8. 分科会等報告

10 の分科会、3 つのネットワーク及び 4 つのタスクフォースからこの 1 年間の活動報告があった。

6.9. FIG 作業週間 2029 の開催立候補国紹介

カナダ（ハリファックス市）とウガンダ（カンパラ市）の 2 か国が立候補し、それぞれ開催地の紹介を行った。カナダの紹介ではカナダの正会員協会 CIG が契約した会社の職員が紹介演説を行った。これに対して会場から CIG 会員ではない人が演説したことに疑義が表明されたが、FIG 事務局は問題なしとの判断と回答した。

電子投票の結果、カナダが 2029 年の開催国として選ばれた。

7. 開会式

ブリスベンの先住民の長老であり、歌手であるアンティ・マロッチが、地域の先祖の物語を語り、歌って始まった。その後、アンドリュー・パウエル環境・観光大臣兼科学・イノベーション大臣が歓迎の挨拶をし、測量士や地理空間専門家の仕事の重要性を強調した。続いて、会議の主催者のオーストラリア地理空間協議会から歓迎の挨拶が行われ、オーストラリアの会員ブラベック氏が自作の本会議のテーマソングをギターと歌で演奏した。

最後に、ダイアン・デュマシーFIG 会長の開会宣言を行った。

8. 会長会議

FIG のメンバーであることで、各国の協会や組織にどのような利益がもたらされるかについて昨年に引き続き同じテーマで議論された。FIG に人を引き付け、収入を増やし、持続可能な組織とすることを目標としている。結論を出すというのではなく、議論の過程で出た意見を事務局がまとめている。議論を整理した結果は FIG のウェブサイトに掲載されている。

9. 全体会議（基調講演）

各全体会議では、4 人のプレゼンターが「協力、革新、強靱性：デジタル世代の支援」という全体テーマのもとで発表を行った。新たな試みとして、4 人のプレゼンターへの質疑応答の後に、短い「イグナイトプレゼンテーション」が会議を締めくくった。

9.1. 全体会議（第 1 日）

「地理学がデジタル世代を牽引する；地理空間エコシステムにおける価値創造と協働」というテーマで、3 日間の会議の基調を定めることを目指すもの。地球とその大気の物理的特徴だけでなく、人間の活動／人口とその影響、資源と経済活動をも網羅するもの。

9.2. 全体会議（第 2 日）

引き続き気候に焦点を当てながら、土地、気候変動、人々との強靱な関係性とは何かを考え、定義しようというもの。

9.3. 全体会議（第 3 日）

デジタル世代において有能な専門家を確保するために専門家としての基準、能力、適切な技能について考えるもの。

10. 技術プログラム

4 つのセッションと 2 つの会議で構成される SIDS（小島嶼開発）特別セッションは、FIG の地域ネットワークが複数の組織と協力して開催。参加したセッションは以下の通り。

TS01H: Geodesy Positioning Nations for the Future

SIDS との共同セッション。太平洋地域における IGS の役割などの講演。

TS03B: Reference Frames and Dynamic Datums: Moving with the Times

国、地域、および地球規模における持続可能な測地基準系の開発に関する議論と事例研究。

TS04J: 3D Land Administration and LADM Session 1

ISO19152 規格の開発、適用、および土地管理コミュニティへの影響に関する最新情報。

TS07A: An Analog Earth in Digital Models: Capturing the World Around Us

現代の世界を未来の社会のために記録するための多様な技術に関するレビュー。村上はデジタル空中写真の GSD と地図縮尺の関係性の国際比較を紹介した。

11. 展示会

Leica Geosystems, ESRI, CHCNAV, MeterPlatform & ApplicationCompany (Saudi Arabia) などの大口スポンサーのほか、多数の企業、オーストラリア政府の出展、日本からは RIPRO の出展があった。



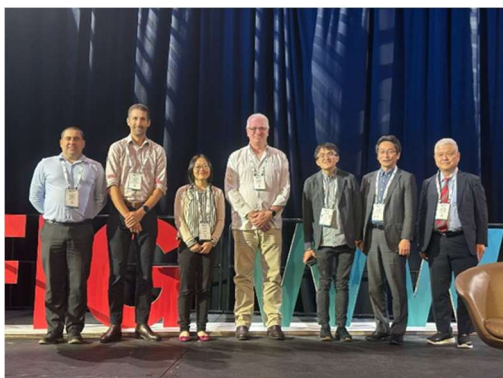
会場外観



総会（理事会メンバー）



総会（分科会委員長及び副会長）



技術セッション TS07A: An Analog Earth in Digital Models: Capturing the World Around Us の発表者